

学校教育目標	感謝と貢献		
a ミッション	地域の教育力を生かした御調プライドを醸成する教育の推進	a ビジョン	○安心・安全で、生徒が夢と志を抱き、心豊かに生き生きと活動する学校 ○自ら学び、考え、判断し行動する生徒を育成する学校 ○心豊かに、自他を尊重し、共に学び、高め合う生徒を育成する学校

尾道市立御調中学校

評価計画					自己評価				学校関係者評価			改善計画				
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案		
					g 達成値	g 達成値				イ	ロ	ハ				
御調クロスロード（時間軸と空間軸）	全ての子どもたちの可能性を引き出す教育実践	学習課題（問い）の工夫による学習意欲の向上  各種調査、定期テスト・単元テストの平均正答率の向上	○学習課題の設定の工夫 ・生徒の疑問に基づく学習課題を設定  各教科において「授業が楽しい」と答える生徒の割合  1. 2年 標準学力調査、3年全国学力学習状況調査の正答率 全国平均以上  ○基礎学力の定着への取組の工夫 ・「学力アップ講座」や「補充学習」の実施 ・「週末課題」の実施  定期テスト・単元テストの平均正答率の向上	85%	76%	75%	88%	B	2学期の生徒アンケートの結果、各教科において「授業が楽しい」と答える生徒の割合（全校生徒・全教科を合わせた平均）は75%と1学期の結果とほぼ同程度であり、伸びは見られなかった。 「授業に前向きに取り組んでいる」と考える生徒の割合（全校生徒・全教科を合わせた平均）は83%であった。  3年生の全国学力調査では、各教科の正答率（1内は全国平均）が、国語66.69%、数学41.51%、英語54.14%、社会59.59%、理科72.60%、英語54.14%、2年生の標準学力調査の結果は、全教科で全国平均を下回った。  1. 2年生の標準学力調査の結果は、全教科で全国平均を下回った。  各学年ごとの5教科において、期末の平均点が中層を上回った教科は33%  各学年ごとの5教科において、期末の平均点が中層を上回った教科は53%	0%	0%	3	1	0	授業について行けないから授業が楽しくないのかなど、原因は何なのか分析してみることも大切ではないか。 個人個人がまずは一教科でも得意教科を持ち、楽しさを感じながら授業を受けられるよう取り組んで欲しい。  定期テストや単元テスト等、小さなステップで生徒の学力アップをお願いします。日々の学習を大切にしながら学力の向上、学習意欲の向上に取り組んで欲しいです。 「学力アップ講座」や「補充学習」をどのような位置づけで実施しているか検証し、定着の実態を把握しながら学力をつけて欲しい。 学校の評価は学力だけではなく、最低限は必要である。先生方の努力が理解しているが、方針を改めることも必要ではないか。  部活動も取り組みながら、学習支援を行うのは難しいと思うので、限られた時間の中で努力されていると思う。地域が支援できることをともに検討することもできるかと思う。	・生徒アンケートで「授業が楽しくない」と答えている生徒に対して、その理由についても問い、原因は何なのか分析する。 ・1時間の授業の中で、生徒の学習意欲を引き出す瞬間をつくることと、学習意欲を持続させる工夫を意識して授業改善を行っていく。  ・宿題について、ただ提出すれば終わりの宿題ではなく、宿題内容についての小テストまで実施し、評価していく。 ・家庭学習の時間や宿題内容の小テストの合格状況を、まとめて表にして教室に掲示し、学習への成果を見える化することで学習意欲を高めていく。  ・「学力アップ講座」や「補充学習」を継続して行っていく。 ・前回の定期試験の結果が30点未満だった教科については、その生徒を指名して「学力アップ講座」に参加させる。 ・「学力アップ講座」では、試験に出す問題のほほ同じ問題を扱い、苦手な教科でも得点できる自信を持たせていく。
	「御調プライド」で仲間とともに高め合う力と自尊感情の育成	生徒相互の関わりによる自己有用感の涵養	○エリア活動・生徒会活動の充実 ・エリア活動の設定 ・各委員会キャンペーンの実施	「自分にはよいところがある」と答える生徒の割合	85%	76%	72%	87%	B	生徒アンケート項目「自分にはよいところがある」「自分の良さは周りから認められていると思う」の2項目における達成度は72%となり、目標値の達成にはいかなかった。この結果を、学年別平均で見ると、1学年52%、2学年72%、3学年92%となり、1学年の自己有用感の底さが自立し、学校行事や生徒会活動において、1学年の活躍の場が十分ではないこと、また、友人関係やコミュニケーション力に不安を抱えている生徒が多いことが要因であると考えられる。  生徒アンケート項目「人の役に立つ人間になりたいと思う」「ボランティア活動に積極的に参加したいと思う」の2項目における達成度は79%となり、目標値の達成にはいかなかった。この結果を、学年別平均で見ると、1学年70%、2学年92%、3学年95%となり、1学年の自己有用感が若干低い結果となった。しかし、協働的な活動に関する関心が高まっていることがうかがえる。	3	0	1	1年生は小学校では6年生でリーダーであったのに、中学生になり一番下になったという思いから、気持ちにセーブがかかっている。1年生中心の取組ができればよいのではないかと。 1年生の来年度の伸びを楽しみにしている。 自己有用感、学習面、生活面に影響を及ぼすので、いろいろな場面で育てていきたい。  ボランティア活動をどこどのように取り組んだらよいか分からない点もあるではないか。参加したことのある生徒の感想や体験談を広く示して伝えて欲しい。 生徒に役割を与え、存在感を出してもらうことをしてはどうか。	・コミュニケーション力を高めるため、学年やクラスでのレクリエーションの時間を取る。 ・1年生の自己有用感を高めるため、生徒会活動における1年生の役割を明確にすることや2・3年生との協働的な活動を増やす取り組みを行う。  ・校内でのボランティア活動に関しては、学校行事におけるボランティア枠をつくり、参加を呼びかけていく。 ・校外（地域）でのボランティア活動に関しては、学校運営協議会と連携し、ボランティア活動に関する情報を集約し、生徒へ呼びかけを行う。	
	地域への感謝の気持ちと自ら貢献しようとする意欲と実践力を持った生徒の育成	地域貢献活動への実践意欲の向上	○小中高連携や地域ボランティア活動の充実 ・小中高連携や地域ボランティア活動の設定	「御調（地域）に愛着を持っている」と答える生徒の割合	90%	74%	78%	84%	B	生徒アンケート項目「私はこの御調が好き」「地域の行事や取り組みに参加しようと思う」の2項目における達成度は78%となり、目標値の達成にはいかなかった。この結果を、学年別で見ると、1学年72%、2学年80%、3学年81%となり、この評価指標における生徒の実践意欲がやや低くなっていることがうかがえる。小中学校の御調児童や中高合同大会・地域貢献活動により、絆や交流はあったものの、その効果が一部の生徒には及ばなかったと考えられる。	2	0	2	地域貢献活動の実施だけでは、意欲の向上は難しいと思う。地域行事との関わり等を工夫することが大切である。地域からの働きかけも工夫が必要である。 中学生の取組を地域にしっかりと発信し、地域と中学生との距離感をなくしていくような取組を考えてみるのも一つの方法ではないか。 方策に、「まなびのどひら」の学習による地域を知り、その良さを感じ、地域に貢献する気持ちを育成する視点を追加していきたい。 地域行事の登録等に積極的に欲しい。 講師ありきではなく、子供たちが関心のある分野を語るのに誰が適任かを学校運営協議会で検討するのがいいのではないかと。	・地域と学校が無理なく協働的な活動ができるよう、地域貢献活動やまなびのどひらを含め、学校運営協議会で活動内容や講師等の検討を行う。 ・地域の行事参加に関しては、生徒会を中心に呼びかけや参加を促していきたいと考えているが、中学生が抱うことができる役割を地域の行事の中に位置づけていただければ、中学生のやる気を高めることにつながるのではないかと考える。	
	教職員が笑顔で生徒の前に立て、ワーク・ライフ・バランスの実現（働き方改革）	業務改善の志向	○業務に専念できる環境の整備 ・教育環境整理（教材庫の整理など）  ○部活動指導に係る教員の負担軽減 ・部活動指導の交代制実施	子供と向き合う時間が確保されていると感じている教職員の割合  時間外勤務時間の削減。 ・前年度に比べ減少又は1ヶ月の合計が60時間以下の職員の割合	90%	90%	81.8	91%	B	子供と向き合う時間が確保されていると感じている教職員は83.3%であった。7月と比較すると1名が子供と向き合う時間が確保されていないと変化した。これは、時間外勤務を削減する中で慌ただしくなり、子供と向き合う時間まで減ったのではないかと考えられる。  4月当初と比べ、1月になるにつれて時間外勤務時間の多い職員の改善が見られた。ある程度成果の見られた月以降の目標達成者は、16人中、11月は1人（81.3%）12月は11人（68.8%）、1月は12人（75%）であった。よって、目標としていた85%の教職員の時間外勤務時間の削減には至らなかった。部活動の複数顧問制は実施してきたが、その他必要な業務改善が必要である。	2	0	2	小学校に比べて中学校の先生方の時間外勤務の多さに感謝している。部活やイベントなどがあるが、休日を積極的にとってほしい。  働き方改革と業務内容の改善は、今後の課題である。授業のテーマを共有するなどして、時間の確保をすることが大事ではないか。 勤務時間の問題は学校単位では解決しないので、教育委員会のうち学校運営協議会などに出席していただいた方がよいのではないかと。	・業務改善の具体策を継続して検討していくとともに、教職員が行っている各種点検業務などの在り方や部活動指導の運用について対策を練り、効率の良い業務遂行ができるよう取り組み、生徒と向き合う時間の増加を目指す。  ・時間外勤務の削減に向けた具体策を考え、教職員個人及人の意識を変え取組を行う。抜本的な対策として、来年度の部活動時間の見直しを進める。また、小さな積み重ねが削減につながることをや本日に必要な作業・業務のなかを見直す視点を共有し、時間外勤務の削減に取り組む。	

【自己評価 評価】

A : 100 ≦ (目標達成) < 100 B : 80 ≦ (ほぼ達成) < 100  
 C : 60 ≦ (もう少し) < 80 D : (できていない) < 60

【外部評価】

イ : 自己評価は適正である。ロ : 自己評価は適正でない。ハ : わからない。